



私がプラネタリアンになったいきさつ

ハルキウ(ウクライナ)で生まれた私は、子供の頃から星に興味がありました。でも、プラネタリウムにはいつかは必ず行こうと思っていましたが、機会がありませんでした。

私は子どもがとても好きで、小学校の先生になるのが夢でした。子どもたちと一緒に過ごし、いろいろなことを伝えるのが大好きです。でも天文への愛も止まりません。

高校を卒業し、大学では天文学科を志望することになりました。面接の日、後に私の指導教官になる入学委員会の女性は、私に物理学科に入学するよう説得してくれました。

天文学科に友人を見つけた私は、天文学の学会に行くようになり、ある会で、ハルキウ・プラネタリウムの館長に出会いました。彼女は会議の後、私をプラネタリウムに誘ってくれました。初めてプラネタリウムを見たとき、私は衝撃を受けました。想像すらできなかった星の数、その近さ！そしてプラネタリウムの解説者の声が、私を地球から遠く離れた信じられないような宇宙の旅に連れて行ってくれたのです。私はこの時、自分はプラネタリウムで働くべきと確信したのです。何しろ、私が大好きなもののすべてがここにあるのですから。私が教えることのできるたくさん子どもたちと宇宙です！

最初は子ども達のための、後に大人向けのプログラムも担当するようになりました。プラネタリウムでの7年間は私にとって、とても刺激的な日々でした！

2022年、戦争が始まるとプラネタリウムは閉鎖され、もう二度と好きなことはできないかもしれないと思いました。

日本に避難してきましたが、言葉がわからなければプラネタリウムの仕事は無理だと悟りました。でも、やってみることにしたんです。多くの日本人の助けで、願いはかないました。

私は再び解説者として働くことができるのです。それは私に安らぎとバランスをもたらしてくれています。



ハルキウ・プラネタリウムでの私